

# Pray for Japan

パルシステム東京  
東日本大震災復興支援活動報告書2024



東日本大震災から14年が経過した今でも、除染土壤の最終処分なども具体的に定まっておらず、復興までの道のりは遠い状況です。2024年度も「3.11を忘れない」を基本視点に、これまでと変わらずに現地で活動している支援団体とともに取り組みました。「親子で学び旅『福島スタディツアーアー2024』」は、次世代への継承をテーマに現地へ訪問する貴重な機会となりました。また、毎年続いている「甲状腺検診」や、映画の上映会などにも取り組みました。これからも「3.11を忘れない」、そして風化させないこの思いを胸に、組合員、支援団体と一緒に様々な支援活動に取り組んでいきます。

生活協同組合パルシステム東京  
専務理事 杉原 學

## 福島スタディツアーアー2024



おれたちの伝承館



震災遺構 請戸小学校



いわき放射能市民測定室  
院長：藤田 操さん

福島スタディツアーアー2024の活動レポートはこちら▶▶▶



次世代への継承と防災をテーマに「今の福島を学び、知り、感じるツアーアー」を開催しました。東日本大震災発災以降に生まれた参加の小学生たちは、訪問先のひとつである「震災遺構 請戸小学校（双葉郡浪江町）」を訪れ、大きな被害を受けた校舎を目の当たりにして驚く一方、津波による被害者が一人も出なかった話に安堵しました。また、「生まれる前の原発事故が私たち世代に影響を与えることはつらいこと」と、感想を述べていました。



## 3.11シンポジウム

3.11を忘れない

「あの日から14年、寄り添い続けられるつながりを」



左から、D4P佐藤 慧さん  
秋元 菜々美さん

3.11シンポジウムは、「3.11を忘れない」を基本視点に、被災地、被災者の状況を正しく知り、東京で私たちにできることをともに考える場として2012年度から開催してきました。今年度は、岩手県出身の佐藤慧氏と福島県富岡町夜の森出身の秋元菜々美氏の講演とお二人のトークセッション。ご自身の震災当時の体験や3.11だけでなくパレスチナガザの状況も話しながら、今後どう寄り添い続けるのかをテーマにお話しいただきました。詳細はホームページをご覧ください。

3.11シンポジウムの活動レポートは  
こちらから▶▶▶



# 2024年度 主な復興支援活動

震災復興支援基金“パル未来花基金”

4月	2024年度震災復興支援基金「パル未来花基金」は、6 グループより申請があり全グループへ、総額170万6,350円を助成
4月6日	防災まち歩き～震災から復興に学ぶ、私たちの防災～ →参加者：14名
5月	パルシステムグループの「2024年度東京電力福島第一原子力発電所事故被災者応援金」パルシステム東京推薦の4団体に209万8,079円を贈呈
6月1日	【オンライン】チェルノブイリ子ども基金主催 チェルノブイリ38年・福島13年 救援イベント 大石芳野氏講演会 「チェルノブイリと福島」
6月17日	【オンライン】「パル未来花基金」2023年度の助成グループ活動成果報告会を開催 参加者：→助成グループ 7名
7月17日	パルシステム東京東日本大震災復興支援活動報告書2023をWEB発行、HPで公開
10月12日	【ハイブリット開催】SILENT FALLOUT上映会＆トーク #未来への警鐘：アメリカの放射能汚染の真実 →参加者：会場55名、オンライン9名
11月	パルシステム東京の取引先金融機関「城南信用金庫ボランティア預金」の利息総額200万円を5団体に配分し贈呈
12月7日	「パルシステム東京 甲状腺検診」 →参加者：34名
12月14日～15日	親子で学び旅「福島スタディツアー2024」 次世代への継承と防災をテーマに「今の福島を学び、知り、感じるツアー」を開催しました。 →参加者：14人（親子6組 うち小学生5人）
2025年1月13日	「おしえて！市古先生」～大規模災害時の暮らしの回復に備えよう～ →参加者26名
2025年3月8日	3.11を忘れない「あの日から14年、寄り添い続けられるつながりを」3.11シンポジウム 今年度は、岩手県出身の佐藤慧氏と福島県富岡町夜の森出身の秋元菜々美氏の講演とお二人のトークセッションを行いました。 →参加者：49人

東日本大震災復興支援活動を資金面で支援する基金です。パルシステム東京組合員が商品やサービスを利用することでうまれた剩余金をもとに、2024年度は6 グループへ総額170万6,350円を助成しました。



©星空キッズツアーアー (2024年度助成グループ)

## パルシステム東京 甲状腺検診

「いわき放射能市民測定室たらちね」と協力し、2015年から実施しています。たらちねクリニックの藤田院長は「継続して検診を受けることが大切」と私たちに伝えています。



## 「おしえて！市古先生」～大規模災害時の暮らしの回復に備えよう～

関東大震災から102年、阪神・淡路大震災から30年、東日本大震災から14年、昨年1月の能登半島地震から1年が経過しました。これらの災害は、東京に住んでいる私たちにとっても他人ごとではありません。能登半島地震支援活動から学ぶ被害と地域性について、自然災害からの暮らしに備える工夫など、自分の地域で何ができるのか事例をもとにお話ししていただきました。



復興支援活動報告書のバックナンバーはこちら

